

## みえ森と緑の県民税を活用した新たな取組と経費

- 1 5年間で想定される新たな取組の経費・・・・・・・・・・1
- 2 みえ森と緑の県民税を活用した新たな取組・・・・・・・・・・2
  - 対策1 土砂や流木による被害を出さない森林づくり
  - 対策2 暮らしに身近な森林づくり
  - 対策3 森を育む人づくり
  - 対策4 木の薫る空間づくり
  - 対策5 地域の身近な水や緑の環境づくり



## みえ森と緑の県民税を活用した新たな取組と経費

### 1 5年間で想定される新たな取組の経費

これまでの取組により明らかになった課題等を踏まえて新たな取組（次項参照）に必要な経費を、次のとおり想定しています。

新たな取組に必要な経費には、

- ・ 今後継続が見込まれる取組のうち森林環境譲与税（仮称）を活用して実施できる取組にかかる経費と、
- ・ 税額・税率を現行制度と同等とした場合に増加が見込まれる税収の活用を想定しています。

（単位：億円）

基本方針	対 策 区 分	新たな取組	継続取組	合計	割合 (%)
災害に強い森林づくり	土砂や流木による被害を出さない森林づくり	10.4	21.0	31.4	61
	暮らしに身近な森林づくり	0.4	8.0	8.4	16
県民全体で森林を支える社会づくり	森を育む人づくり	1.7	3.6	5.3	10
	木の薫る空間づくり	0.9	0.9	1.8	4
	地域の身近な水や緑の環境づくり	1.5	2.9	4.4	9
小 計		14.9	36.4	51.3	100
共通経費		2.7		2.7	
		合 計		54.0	

## 2 みえ森と緑の県民税を活用した新たな取組

これまでの取組により明らかになった課題等を踏まえ、「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるため、以下の新たな取組が必要であると考えられます。

### 基本方針1：災害に強い森林づくり

#### 対策区分1 土砂や流木による被害を出さない森林づくり

想定事業案(中間案 P6)	これまでの取組により明らかになった課題等への対応	想定される新たな取組	事業費
②流域の防災機能強化を図る森林整備	山地災害から生命、財産を保護するためには、未整備森林の面的な整備を進めることが求められていることから、市町における②の取り組みを推進します。	▼災害緩衝林整備事業実施箇所周辺の面的な森林整備	新規 10.4億円
④土砂や流木による被害を出さない森林づくりの基礎情報整備	未整備森林を効果的かつ効率的に整備するためには、森林の現状を的確に把握し、優先的に森林整備を実施する地域等を判断する必要があることから、県、市町が新たに④に取り組めます。	▼森林の現状を的確に把握するための航空レーザー測量の実施 ▼所有者や境界が不明な森林における森林境界明確化	継続 21.0億円 合計 31.4億円
⑤森林の機能を維持するための獣害対策	ニホンジカによる食害等は下層植生の生育を妨げるなど、森林の持つ土砂流出防止等の機能を低下させる一因となっていることから、これを予防するため、県、市町が新たに⑤に取り組めます。	▼獣害対策を支援する補助事業 ▼獣害対策(獣害防護柵の設置等)の実施	

#### 継続事業の拡充

崩壊土砂流出危険地区以外にも対策が必要な箇所が多数存在していることから、主に県が実施する継続事業において、崩壊土砂流出危険地区の指定に関わらず、現地の状況に応じた実施箇所の選定を行うとともに、市町が地域の実情に応じて事業を実施します。

基本方針 1：災害に強い森林づくり

対策区分 2 暮らしに身近な森林づくり

想定事業案（中間案 P6）	これまでの取組により明らかになった課題等への対応	想定される新たな取組	事業費
① 荒廃した里山や竹林の再生	木材生産に適さない森林は林業経営による保全が困難なため、多様な樹種からなる広葉樹林化することにより森林の持つ公益的機能が維持されるよう、市町が新たに広葉樹の植栽に取り組みます。	▼ 伐採跡地への広葉樹植栽の支援	新規 0.4 億円 継続 8.0 億円 合計 8.4 億円

継続事業の拡充

防災・減災の観点から行う間伐等の森林整備に新たに取り組む（対策区分 1②）ことに合わせて、防災・減災の観点から公的管理が望ましい森林の公有林化に取り組みます。

基本方針 2：県民全体で森林を支える社会づくり

対策区分 3 森を育む人づくり

想定事業案（中間案 P7）	これまでの取組により明らかになった課題等への対応	想定される新たな取組	事業費
③ 三重の森林づくりを担う人材の育成	森林環境教育・木育の指導者に加え、森林・林業全般を担う人材の育成を進める必要があることから、県、市町が新たに③に取り組みます。	▼ 地域における森林・林業全般を担う人材の育成 ▼ 高校生を対象とした林業職場体験	新規 1.7 億円 継続 3.6 億円 合計 5.3 億円
④ 森林環境教育・木育が行える場の整備	取組を継続するとともに、地域の特性や学校の実情に応じ、森林環境教育・木育を県内全域で進める必要があることから、県においても新たに県内全域を対象として④に取り組みます。	▼ 既存施設のリニューアルによる森林環境教育・木育が体験できる場の整備	

基本方針 2：県民全体で森林を支える社会づくり

対策区分 4 木の薫る空間づくり

想定事業案（中間案 P7）	これまでの取組により明らかになった課題等への対応	想定される新たな取組	事業費
① 県産材を活用した公共建築物等の木造・木質化	広く波及効果が期待できる企業と連携し、多様な主体による木の薫る空間づくりを展開するため、県においても新たに①、②に取り組めます。	▼大規模集客施設等の木造・木質化の支援 ▼木質化されている公共施設等のリニューアル	新規 0.9億円 継続 0.9億円 合計 1.8億円
② 公共施設等への木製備品の配備		▼大規模集客施設等の木製備品配備の支援 ▼公共施設等に配備されている木製備品のリニューアル	
③ 木材利用の啓発	木材利用は森林の保全につながることを、県民に対してさらに周知する必要があることから、県においても新たに③に取り組めます。	▼災害に強い森林をつくり、将来にわたって引き継いでいくためには、木材を利用して森林を支える社会であることが重要であることの普及啓発	

基本方針 2：県民全体で森林を支える社会づくり

対策区分 5 地域の身近な水や緑の環境づくり

想定事業案（中間案 P7）	これまでの取組により明らかになった課題等への対応	想定される新たな取組	事業費
① 森林の総合利用のための整備	広域的に配置されている自然歩道等は登山の経験が比較的浅い人でも楽しむことができる道であり、これをリニューアルすることにより、トレイルランニングなど多様な主体による活用を促し、より多くの県民が自然に親しむ機会をつくるため、県においても新たに①に取り組めます。	▼ 広域的に配置されている遊歩道等のリニューアル	新規 1.5 億円 継続 2.9 億円 合計 4.4 億円
② 生物多様性の保全	生物多様性の保全を考慮して地域における森林等の自然環境保全活動を進める必要があることから、県、市町が新たに②に取り組めます。	▼ 自然環境・生物多様性に係る情報収集、調査やデータベースの整備 ▼ 自然環境・生物多様性保全活動団体等への支援 ▼ 植物群落の保全や普及啓発	
③ 地域の身近な水や緑の環境づくりに資する事業	暮らしに身近な場所で、気軽に緑にふれ、草木に親しみを感じられる環境づくりを進めるため、古くから地域に愛されている身近な桜並木などに親しむための散策道やトイレ等の整備に、市町が新たにに取り組めます。	▼ 住民に身近な桜並木など、緑に親しむための散策道やトイレ等の整備	